

「大妻中野から

考える「学校」の未来」

大妻中野中学校・高等学校 校長 諸橋 隆男

中野区という環境には、日頃より本校生徒が大変お世話になっております。また、保護者・卒業生・教職員も含めて、中野の街に対する愛情はかなり大きなものがあります。皆様が温かな心で見守ってくださるおかげです。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

大妻中野では、あらゆる部活動が盛んです。生徒が一生懸命に取り組み姿を見ると、かけがえのない宝物のような時間を過ごす彼女たちの幸福は、とても言葉では表現しきれないものだと感じます。なかでも、中高合唱部は全国大会でも常に上位にランクインする実力校でもあり、中野の皆様にも常に熱い応援をいただいています。NHK全国学校音楽コンクールでは二連覇を果たすことができました。私たちは、優秀な成績をあげることに對しても学校全体で喜びを共有していますが、皆様にお伝えしたいのは、彼女たちの目指すところが「お世話になった方々に愛される団

体として活動する」であるという点です。日常からそういった気持ちを活動の核としているため、例えば、彼女たちの発する「感謝」という言葉には自然と深い気持ちが込められていると感じます。

こういった気持ちは、他の部活動、それ以外のプログラムでも根底に置かれています。そしてその文化に共感できる生徒たちを育ててこられた保護者の皆様に対しても、私たち学校関係者は敬意をもっていきます。

さて、ここまで学校の様子をお話したのは、未来に向けて「学校」はメッセージを発し続けなければならぬのではないかと、最近考えるからです。公立も私立も、学校にはそれぞれの文化があり、その文化を育む日常生活から「希望」や「夢」、「課題」「提言」が生まれてきます。それらをもっと外に向けて発していく責任があると考えられています。

今も昔も「学校」はその時の社会を映し出す縮図のような場所だと考

えています。しかし、今は、一つの学校の中に社会全体の縮図があるのではなく、それぞれの学校が、社会のある一面を持ち合わせていて、もし、その報告の総体を知ることができると、きつと、現代社会のダイバーシティ（多様性）が目に見えてくるのではないのでしょうか。

今、「学校」には多くの責任があります。その責任を全うすることが要求されます。しかし、ある意味、現在社会から要請される責任を果たすという「内なる仕事」だけでなく、そこから生まれてくる「幸福」「明るい未来」そして「課題」を外部和共有すること、社会全体の課題であることが認識されると、学校がもっとフレキシブルに活動できるのではないかと感じていいるのです。

そしてそれがうまく機能すれば、時に内部で完結してしまう学習活動の素晴らしさが、社会と共有されて、「共存」できる部分が増えると思っています。

物事を変える時には大きなエネルギーが必要で、しかし大きなエネルギーと共に変化する未来社会を担う若者の学習環境を良くしていくために

も、これらの点が少しでも実現できればと考えています。

これからも大妻中野中学校・高等学校をよろしくお願いいたします。

令和5年度の区内史跡めぐり

「上高田寺町周辺」を

実施しました

令和6年3月28日19名の参加者で実施しました。最初の見学場所の源通寺は、浄土真宗大谷派の一寺、創建は1610年、山門を通ると、正面に本堂があります。墓地には江戸（明治時代）にかけての歌舞伎・狂言作者河竹黙阿弥（本名は吉村 芳三郎 よしむら よしさぶろ）の墓があります。歌舞伎としてよく知られている『三人吉三廓初買』（さんになきちさくくるわの はつがい）と『青砥稿花紅彩画』（あおとぞうし）はなの にしきえ）の白波五人男などの作者です。

次に、高德寺は、真宗大谷派に属し、開基は釋了智（しゃくりょうち）です。このお寺には、新井白石夫妻と一門の墓そして美容家・山野愛子、明治時代の女性記者・磯村春子（NHKはね駒のモデル）、芸能界では沢村国太郎、長門裕之、南田